

基労補発第0819002号
平成16年8月19日

(財)労災保険情報センター
専務理事 殿

厚生労働省労働基準局
労災補償部補償課長

診療費請求内訳書等の情報提供について

常日頃労働基準行政の運営に御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、今般、別添「長期療養者の適正給付に係る情報提供について」のとおり、貴財団からの診療費請求内訳書等の情報提供に基づき、適正給付対策を推進することと致しました。

つきましては、都道府県労働局より貴財団地方事務所に対し依頼が行われた場合、特段のご配慮方よろしくお願い致します。

なお、診療情報報告書の具体的な記入につきましては、別紙「診療情報報告書記入要領」を参考とされますよう併せてお願い致します。

診療情報報告書記入要領

1 共通事項

- ① 整理番号欄には依頼局名及び依頼局より送付された「情報提供の対象となる長期療養者」の整理番号を記入すること。
- ② 1件のレセプトについて1行の記入とすること。

2 項目別

A 診療月

原則として直近6ヶ月間分を古い順番に記入すること。

B 医療機関等

受診している医療機関名を転記すること。

C 診療実日数

レセプトの「診療実日数」を転記すること。

D 傷病名

レセプトの「傷病名」を転記すること。

E 診療内容

- ① 該当する項目番号を○で囲むこと。
- ② 項目1については、外来又は入院のいずれかを○で囲むこと。
- ③ 項目3については、レセプトの診療内容欄の皮下筋肉内、静脈内及びその他の合計回数を記入すること。
- ④ 項目4～7については、当該項目を行った回数をレセプトの診療内容欄から転記すること。
- ⑤ 項目8については、レセプト摘要欄の回数を合計した回数を記入すること。

F 診療内容の詳細

- ① 主な投薬、処置等の内容を記入すること。
- ② 処方箋による院外処方の場合には「院外処方」と記入すること。

G 傷病の経過（治ゆ見込等）

レセプトの「傷病の経過」欄に記載されている内容を転記すること。

H 傷病労働者の診療の特徴・特記事項

該当する項目番号を○で囲み、その特徴・特記事項を簡潔に記入すること。

別 添

基勞補発第0819001号
平成16年8月19日

都道府県労働局
労働基準部長 殿

厚生労働省労働基準局
労災補償部補償課長

長期療養者の適正給付に係る情報提供について

長期療養者の適正給付対策については、昭和59年8月3日付け基発第391号「適正給付管理の実施について」及び平成8年1月25日付け基発第35号「振動障害に係る保険給付の適正化について」により実施してきたところであるが、今般、これら業務の効率的な推進を図るため、(財)労災保険情報センター(以下「RIC」という。)から都道府県労働局(以下「局」という。)に対して、下記により労災診療費の情報を提供させることとしたので活用されたい。

記

1 局からの情報提供依頼について

- (1) 情報提供を求める長期療養者は以下により選定する。
 - ① 原則として療養開始から3年以上の長期療養者とする。
 - ② 対象傷病は当該局が定めること。ただし、じん肺患者及び振動障害患者は、当分の間、対象としない。
 - ③ 情報提供を求める長期療養者数は、局と RIC 地方事務所の協議により決定する。
- (2) 情報提供の対象期間は、RIC 地方事務所のレセプト管理システムにおいて抽出可能な直近6ヶ月分とする。
- (3) 局は別紙1により、情報提供を求める長期療養者の一覧を提供の上、対象者が受診している医療機関所在地の RIC 地方事務所に毎年7月末日まで(平成16年度については、9月末日まで)に直接依頼を行うこと。

2 局への報告について

RIC は、別紙2及び「診療費請求内訳書」により毎年9月末日まで(平成16年度については、11月末日まで)に局に情報提供を行う。

| | |
|------|-----|
| 整理番号 | |
| 局 | No. |

| | |
|----------------------|--------------------|
| 労働保険番号: | 傷病年月日: 昭和 平成 年 月 日 |
| 傷病労働者氏名: | 診療情報報告期間: |
| 生年月日: 大正 昭和 平成 年 月 日 | 平成 年 月 ~ 平成 年 月分 |

| A 診療月 | B 医療機関等 | C 診療実日数 | D 傷病名 | E 診療内容 | F 診療内容の詳細 | G 傷病の経過(治ゆ見込等) |
|--------|---------|---------|-------|---|-----------|----------------|
| 平成 年 月 | | 日間 | | 1. 外来or入院 2. 投薬 3. 注射(回) 4. 処置(回) 5. 手術(回) 6. 検査(回) 7. 画像診断(回) 8. リハビリテーション(回) 9. その他 | | |
| 平成 年 月 | | 日間 | | 1. 外来or入院 2. 投薬 3. 注射(回) 4. 処置(回) 5. 手術(回) 6. 検査(回) 7. 画像診断(回) 8. リハビリテーション(回) 9. その他 | | |
| 平成 年 月 | | 日間 | | 1. 外来or入院 2. 投薬 3. 注射(回) 4. 処置(回) 5. 手術(回) 6. 検査(回) 7. 画像診断(回) 8. リハビリテーション(回) 9. その他 | | |
| 平成 年 月 | | 日間 | | 1. 外来or入院 2. 投薬 3. 注射(回) 4. 処置(回) 5. 手術(回) 6. 検査(回) 7. 画像診断(回) 8. リハビリテーション(回) 9. その他 | | |
| 平成 年 月 | | 日間 | | 1. 外来or入院 2. 投薬 3. 注射(回) 4. 処置(回) 5. 手術(回) 6. 検査(回) 7. 画像診断(回) 8. リハビリテーション(回) 9. その他 | | |
| 平成 年 月 | | 日間 | | 1. 外来or入院 2. 投薬 3. 注射(回) 4. 処置(回) 5. 手術(回) 6. 検査(回) 7. 画像診断(回) 8. リハビリテーション(回) 9. その他 | | |

| | |
|--------------------|------------|
| H 傷病労働者の診療の特徴・特記事項 | 1 診療内容 () |
| | 2 診療期間 () |
| | 3 その他 () |

注)E及びH欄は該当する番号を○で囲むこと。

| 整理番号 | | 労働保険番号: 12112123456123 | | 傷病年月日: 昭和(平成) 13年 6月 10日 | | |
|--------------------|---------|------------------------|---|--|---------------|---|
| 〇〇局 | No. 1 | 傷病労働者氏名: 〇〇 〇〇〇 | | 診療情報報告期間: | | |
| | | 生年月日: 大(昭)平 40年 2月 16日 | | 平成 15年 12月 ~ 平成 16年 5月分 | | |
| A 診療月 | B 医療機関等 | C 診療実日数 | D 傷病名 | E 診療内容 | F 診療内容の詳細 | G 傷病の経過(治ゆ見込等) |
| 平成15年12月 | 〇〇診療所 | 2日間 | 〇〇骨〇〇骨折 | 1. (外来)or入院 ②. 投薬 3. 注射(回) ④. 処置(2回) 5. 手術(回) 6. 検査(回) 7. 画像診断(回) 8. リハビリテーション(回) 9. その他 | 鎮痛剤の投与、消炎鎮痛処置 | 〇〇骨〇〇骨折について、 通院加療を行い、なお療養 が必要である。 |
| 平成16年1月 | 〇〇病院 | 1日間 | 〇〇骨〇〇骨折 | 1. (外来)or入院 ②. 投薬 3. 注射(回) 4. 処置(回) 5. 手術(回) 6. 検査(回) 7. 画像診断(回) ⑧. リハビリテーション(1回) 9. その他 | 院外処方、理学療法 | 外来にて理学療法、投薬を 行い保存的治療した。 |
| 平成16年1月 | 〃 | 1日間 | 〃 | 1. (外来)or入院 ②. 投薬 3. 注射(回) 4. 処置(回) 5. 手術(回) 6. 検査(回) ⑦. 画像診断(1回) 8. リハビリテーション(回) 9. その他 | 画像診断(単純撮影) | 〇〇骨X-P実施 |
| 平成16年2月 | 〇〇診療所 | 2日間 | 〇〇骨〇〇骨折 | 1. (外来)or入院 ②. 投薬 3. 注射(回) ④. 処置(2回) 5. 手術(回) 6. 検査(回) 7. 画像診断(回) 8. リハビリテーション(回) 9. その他 | 鎮痛剤の投与、消炎鎮痛処置 | 〇〇骨〇〇骨折について、 通院加療を行い、なお療養 が必要である。 |
| 平成16年3月 | 〇〇診療所 | 1日間 | 〃 | 1. (外来)or入院 ②. 投薬 3. 注射(回) ④. 処置(1回) 5. 手術(回) 6. 検査(回) 7. 画像診断(回) 8. リハビリテーション(回) 9. その他 | 鎮痛剤の投与、消炎鎮痛処置 | 〃 |
| 平成16年4月 | 〇〇診療所 | 1日間 | 〃 | 1. (外来)or入院 ②. 投薬 3. 注射(回) 4. 処置(回) 5. 手術(回) 6. 検査(回) 7. 画像診断(回) 8. リハビリテーション(回) 9. その他 | 鎮痛剤の投与 | 〃 |
| H 傷病労働者の診療の特徴・特記事項 | | | ① 診療内容 (消炎鎮痛処置等痛みに対する対症療法が中心と考えられる) ② 診療期間 (実診療日数が月1~3日程度である) ③ その他 () | | | |

注)E及びH欄は該当する番号を○で囲むこと。